



本村小学校



自分たちが踊りを継承して、この地域を活性化しよう。平家踊りを教育課程に位置付けたことで、子どもたちが自ら考え「技能の伝承」が「地域を活性化する活動」へ。令和6年度「博報賞」「文部科学大臣賞」を受賞しました。



▲熟慮と議論を意識した話し合い「熟識」ファシリテーターを務めるのは子どもたち。出た意見をもとに自分たちで課題を決める。

体育館に入ってみると、おや、学校の先生には見えない人がたくさん。三味線を指導する人や音頭をとる中学生、太鼓をたたく仕事帰りの人、みんな子どもたちと一緒に汗を流して、平家踊りの練習に汗を

流しています。木曜日の夕方、日が沈む頃聞こえてくる太鼓の音。本村小学校平家踊りを受け継ぐ子の会の活動が始まりました。昭和59年に結成され、40年目を迎えた今年。踊り・太鼓・三味線・音頭のすべてを子どもたちだけで演奏できるのは市内ではこの会だけだと思います。

つかんだ日本一の賞

どうやってたら
地域を盛り上げられるか



本村小学校
キャラクター
へいけっこ

「それ以前は、1・2年生が踊りを教わって、3・4年生が太鼓や三味線などの技能を教わってきました。これを、ふるさと玄洋学という小中一貫のカリキュラムの中に位置

付けたのです。指導者の高齢化や児童数の減少、さらには、新型コロナウイルスによる出演機会の喪失といった、活動の存続が危ぶまれた時期がありました。さあどうする、となった時、コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、教育課程の中に平家踊りの継承を位置付けたのです。

技能の伝承から 地域を活性化する活動へ

特に評価されたのが、子どもたちが地域と課題を共有し自ら考え主体性のある行動を取った、という点でした。

本村小学校は、今年度「博報賞」の中でも最高賞となる博報賞と文部科学大臣賞を受賞しました。タイトルは「平家踊りの伝統を受け継ぐユニティ・スクールの仕組みを活用して」

Linked Instagram インスタグラム

市報×インスタグラム連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関
の魅力が伝わる写真をご紹介します



📍 @nakamaru_shukichiさん



📍 @junjun_tioさん



📍 @hisapanda.mark2さん

CAN YOU GUESS WHERE THIS IS?

体が覚えているんです
太鼓のリズムを

ええね
うまいじゃん

本村小学校平家踊りを
受け継ぐ子の会会長
松本和浩さん

校長先生を見てみると
こっちゃんも
頑張ろうって
気になるんです

ふるさと玄洋学が
成り立つのは
小山さんのおかげ

下関平家踊保存会彦島連会長
佐々木猛さん

本村の未来は
僕たちがつくる

本村小学校6年
中村心乃助さん

地域学校協働活動推進員
小山智子さん

本村小学校校長
前田真奈美さん



▶馬関まつりで演奏する子どもたち
「ステージで太鼓をたたくのが楽しい」と中村心乃助さん。

地域とともにある学校

付けたことで、5・6年生、そして中学生になっても授業の中で平家踊りに関わられるように。すると、技能の伝承のための活動が、伝統芸能で地域を活性化させようという、子どもたちの主体的な取り組みに変わってきました」と、前田真奈美校長は話します。

ふるさと玄洋学をはじめ、学校と地域の連携を支えるのは、地域学校協働活動推進員の小山智子さん。調理実習やふるさと探検など、それぞれの活動に適した地域のボランティアをコーディネートするだけでなく、新しく入学する

児童の保護者の不安を減らすと相談に乗ってあげる姿に、前田校長は「コミュニケーション・スクールになくってはならない存在です」と話します。

小山さんの他にも、活動を支える地域の方が、本村にはたくさん。

皆さんが口をそろえて言う3つのこと。「楽しんでほしい。続けてほしい。次の世代につないでほしい」。思いが一つであるからこそ、皆さんの主体的な活動が続いていくのかもしれないね。

▼わくわく地域連携教育だより
本村小学校の取り組みが詳しく紹介されています。



Editor's note 編集後記

◆1月12日は二十歳を祝う会。2月号で特集します。うちの子も20歳。会場がJ:COMアリーナ下関になり、保護者も会場に入れるので取材を兼ねて(うちの子の)写真、撮りまくります。(く)
◆締め切りとは?最近流行のAIに聞いてみた。「逃れられない最後の日」「追いつめられる最終期限」
こども聞いてみた。ではポジティブに言うと?「努力が輝きに変わる日」毎日が輝いてる(み)